

私たちは 幼児から高齢者までの豊かな生活空間を研究 実践するために松山市在住の異業種の女性たちで作った NPO 法人です。 私たちに共感し仲間に加わってくださる方たちの輪を少しでも広げる為に 私たちの活動をご紹介します JMACS 通信を季刊で発行しています。 皆様のご意見 情報をお待ちしています。

【 地域密着型サービス外部評価事業 】

審査委員会開催 (3月10日)

評価審査委員会は、評価事業の運営適正化のために行なうものです。認知症介護に関する学識経験者、認知症高齢者の家族代表、グループホーム代表者で構成しています。毎年定期的を開催しており、評価実施後アンケートなどをもとに意見をいただきます。

今年度は5月中旬から訪問調査をスタートさせます。約100事業所の外部評価を実施予定です。新しいサービス評価が始まり2年目、今年度はさらに、グループホームにとって意義ある活動になるよう工夫を重ねていきたいと考えています。

【 福祉サービス第三者評価事業 】

福祉サービス第三者評価事業は、昨年度8事業所より評価を受注し、愛媛県のホームページや全社協のウェブサイト <http://shakyo-hyouka.net/> で、評価結果を公表しました。

社会的養護関係施設の評価は義務化されていますが、保育所などその他の福祉サービスでは努力目標となっています。保育所や高齢者分野で第三者評価の取り組みが広がることを期待しています。

【 介護サービス情報の公表制度 】

平成30年度の介護サービス情報公表制度調査は、今年も9月より調査を開始する予定です。昨年度は103事業所の調査を行いました。事業所の理解も進み順調に調査が進みました。

調査結果は、厚生労働省のウェブサイト <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/> でご覧いただけます。

【 遊友学舎 】

科学実験工作教室は子どもゆめ基金の助成金をいただいで、1年間に9回ほど実施しています。講師の先生方は、長年愛媛で子どもの理科教育に携わってきて、ご退職後も子どもの理科教育にさらに熱心に取り組んでおられるその道では有名な方々です。



実験の助手は愛媛大学の「ひめこ」というリケ女グループの人たちがきて下さっています。3月には29年度最後の教室が開かれ、テーマは「簡易なロボットをつくろう」でした。大人気で申込は定員16人のところ50人を超え、抽選になりました。

有線ですが、リモコン操作で紙コップで作ったロボットを左右前後に動かすことも、くるくる回すこともできます。先生が途中まで準備下さり、ハンダ付けや組み立てなどは各自がして2時間で完成できました。みんな上手に操縦して楽しんでいました。女の子も参加していました。



今年度も助成金をいただけることになり、5月には、これもまた大人気の恐竜時計を作ります。